

金田氏

大歲神社拜殿

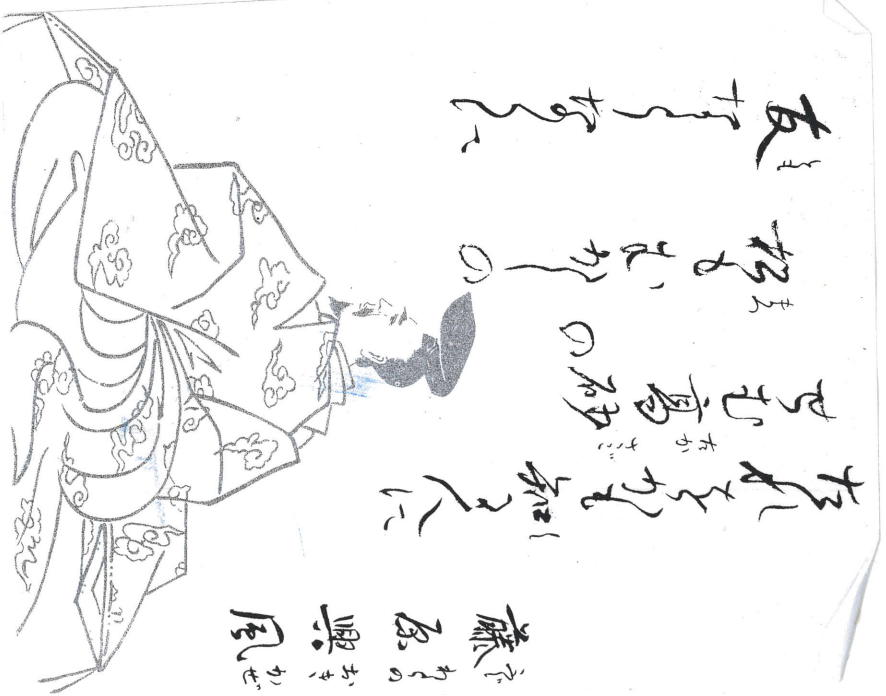
二一
合口
六人
歌人
仙仁
扇頁



牽制三拾六歌石山

願主○○○神問

米の収穫が、



一 調べた理由

好きです。
私は平安時代の文学が好きで中でも百人一首が
幼稚園の頃おばちゃんに百人一首のれを習
てもらいました。その代がの好れ絵が気に入った。のが
き、かりで平安時代の好れ絵が気に入り、飾ってある
そして、余田大歳神社の拝殿にこれが飾ってある
のは、小さい頃から知って歌仙のし歌を、たので調べて
年、夏に、そのれが三拾六歌仙のし歌を、たので調べて
と、おじいちゃんに敬えてもらって、たので調べて
そうと思っただから

二 調べた内容

① 三十一首歌仙とは

○ 藤原公任が選んだ。(藤原道長の子の時代)

○ 万葉集、古今集、新古今和歌集、後拾遺集から歌人を選んでいる。

② 三拾六歌仙の歌人と歌

○柿本入麻呂（サキノモトノマサヲ）

あしびきの山鳥の尾の
しだり尾の
はがばがし夜をひとりかき将た

○紀貫之（キクノツナキ）

人はいた、人もしらず
ふるさとは
花ぞわがしの
香にほひなる



○凡河内躬恒（オホノチノミチノリ）

心あてに
折げやあらむ
初霜の
おきまどわかろ
白きくの花相の

（百人一首に選ばれて
いる。
類欠損。）

（百人一首に選ばれていない。
類は、詠めなかった。）

（百人一首に選ばれていない。
類欠損。）



○伊勢勢

難波がた おじがきあしの
あはでーのせの ぐいしてきや

百人一首に選ばれてい
る。願は読めなれた。

○大伴家持

わたせる橋に おく雲相
しをみれば 夜やふりける

百人一首に選ばれてい
る。願は損。

○山部赤人

若の浦に 潮満ちくれば
き渡る 鳥鳴き渡る

百人一首に選ばれてい
る。上の歌が願の歌。

○在原業平

ちはやぶる 神代まが
かしく水はるに 水くくるとは

百人一首に選ばれてい
る。願は読めなれた。



○紀友則
久かたの
しづく

ムカリノヅリキ、春の目、
しづく 花のちるいふ



○素性法師
今こもと いふしづかに

有明の月を まちいであるかは



○僧正通昭
あまつかせ

雲のがよみ路 吹きとちよ
乙女のすがた しづくとめえ

(百人一首に選ばれてゐる。
冊類は詠められた。)

5

(百人一首に選ばれてゐる。
冊類は詠められた。)

(百人一首に選ばれてゐる。
冊類は詠められた。)



〇様丸大夫さまだいらふ

おく山に 紅葉ふかぢ 秋はがけしき

〇小野のの明あきら

花のいろは かりにけり はにだに
わが身世にふる ながめしき

〇藤原兼輔ふじわらのかねすけ

かがの原 わきえはなる いづれ
いづかきとてか 恋しがるは

〇藤原朝忠ふじわらのあそ

人づてにし せし
おにモリにお おやわらん

〇藤原敏忠ふじわらのあさた

あにわの うちあに びに へんぶれば
おかしきものを おもはせしき

(百人一首に選ばれてゐる。)
藤原久頼。

(百人一首に選ばれてゐる。)
藤原久頼。

(百人一首に選ばれてゐる。)
藤原久頼。

6

(百人一首に選ばれてゐる。)
上の歌が藤原久頼。

(百人一首に選ばれてゐる。)
藤原久頼。



の斎宮女御
琴の音に 峰の松風 通ぶし
いづ水のなまり 調べそめり

(百人一首に選ばれた。)
扇類は歌わなかった。



の壬生中へ出ろ
ありあけの 水はくえし
あかろき けり なるし

(百人一首に選ばれていない。)
扇類欠損。



の源仁忠
行きやうだ
今一声の 聞かすしさに

(百人一首に選ばれた。)
上の歌が扇類の歌。

の藤原高光
かへばかり 経へ 難く 見ゆる 世の中に
いづやましくも 澄める月が

(百人一首に選ばれた。)
上の歌が扇類の歌。



大 中 臣 頼 基
おなほおのよりんと

いのかに おきて 水はマへにばは
またよそにめて ちいなるかな

百人一首に選ばれた。
（頼基欠損。）

藤 原 敏 行
秋き、ぬと 目には大やが見えねども
風のまじぎ おどろかれぬる

百人一首に選ばれてゐる。
（上の歌が頼基の歌。）

源 重 之
みなせとのしゆき

かぜいたか 岩う波の おのれの
くだりて 物を思ひふらかな

百人一首に選ばれてゐる。
（頼基欠損。）

源 宗 子
山里は 冬さ大びと、ま、いろ
人ぬも草も か水ぬとおも人ば

百人一首に選ばれてゐる。
（頼基は読めなかつた。）



源信明 みなもと の のぶあきら

あたらし夜の月と花とを同じへば
あはれ知らん人に見せばや

(百人一首に選ばれた。
類聚欠損。)

藤原仲文 ふじわらの なかふみ

有明の月の光を待時どに
我が世のいたゝふにひるかな

(百人一首に選ばれた。
類聚は読めなかった。)

大中臣能宣 おほなまの かつのぶ

千とせまで限れる松も
合百よりは君に引かれ
万代は経る

(百人一首に選ばれている。
この歌が類聚の歌。)

壬生の心見 みづの こころみ

恋ありてわが名はまだき
人知れずこそ思ひそめし

(百人一首に選ばれている。
類聚は読めなかった。)



藤原興風
おじのふみかぜ

たれをがえ 知る人にせよ 高砂の
松もむかし 女はなほと

(百人一首に選ばれてゐる。
上の歌が桐原歌)

源順
かきとつた

氷だに とまらぬ 春の 風は
まだ へりけぬ 鶯の 声

(百人一首に選ばれてゐる。
桐原歌が上)

藤原清正
おじの きみだ

五月 階 鞍馬の 山の ほろび
おぼへがはしや 土の 声

(百人一首に選ばれてゐる。
桐原歌が上)

清原元輔
 ちきりきな
 木の松山
 坂上皇則



かたがに神を しほりん
 波ニタシとけ

(百人一首に選ばれてゐる。
 扁額欠損。)

おとしの山の白雪
 ちまふむく たりまふなり

(百人一首に選ばれてゐる。
 上の歌が扁額の歌。)

藤原天真
 白玉が 雲をよけ人まがな
 ものびふ神も たりてスル



(百人一首に選ばれてゐる。
 扁額は歌めなれた。)

小大君
 岩橋の 夜の歌りも 絶えぬべし
 くらわがしき 葛木の神

(百人一首に選ばれてゐる。
 扁額欠損。)



平素成
ひらひら
ひらひら



中
ちゅう
ちゅう
袖務

のうの
雲の久来浪吹きかへす秋風
涼しむらん

(百人一首に選ばれてゐた。
扇類は歌あはれた。)

思ふほど ひらひら
水がたは
もやみと 人のうき

(百人一首に選ばれてゐた。
扇類は歌あはれた。)

③ どのあたりにあるか

僧正	遍昭	赤人	伊勢	紀	貫光	冬則
----	----	----	----	---	----	----

藤原朝忠	藤原高光
------	------

N 4

源順	大中臣	能宣	藤原元真	藤原仲文	生忠	中務
----	-----	----	------	------	----	----

平藤盛



坂上	藤原	是之	興風	清正	敏行	宗子
----	----	----	----	----	----	----

斎宮	源公忠
----	-----

素性	法師
----	----

三模歌	仙
-----	---

三. 考察

①

思ふに、百人一首に選ばれて藤原公任と同世代の人が、近人は百人一首に選ばれていない人、選ばれた人としていた。このことを、私が調べるのに使った本には、「国歌の水準より、人間関係、政治的事情を優先したとみて、人間遊になつて書かれていき、た。これを読んでも、私には、やはりいつの時も人間関係は大事件だと思ひました。

②

拝殿には他に毛絵馬が四枚、
奉納された。年々見ると「天明」
寛政、天保「など」と書かれていた
ので、江戸後半に奉納されたことが
わかりやすい。

余田大歳神社は、¹³³⁶年(建武3年)
後藤基明^{もとあき}が飯成^{いなり}山^{やま}(春日山)
城を築いて以来、¹³⁵⁴年基明が、島
居を寄進するなど、後藤氏に支
えられ、来た。

1578年(天正6年)9代 後藤基信の代

に、春日山城が落城するまで、9代(242

年間)に渡り、春日山城王の支援を受け、

大歳神社は、現状の規模になつたと想に

定される。拝殿にある絵馬は、年代が

明らかなるのは、1809年(文化12年)の布14袋、
1822年(文政5年)には、袋

拝殿が再建される。棟札ふたばがあるの、下立

証とされている。また、1888年(明治30年)には、
拝殿への石段が造られてゐる。

大歳神社関連の造営物は、年代が
分か、^ているものだから、^も多々
あり、近郷の村民に^たけでなく、郡内
関西圏の人から、寄進を受けるほど
信仰が、^たま、あつた神社である
と考えられる。

③

考察②からいふことは、八千種は

文化面でも、米の取本高(経済面)
でも、豊かな村であつたと思ふ。

なぜなら、文化面は江戸時代後半

に和歌を奉納するといふは、奉
納する人が和歌の価値を尊ぶ人だ
であり、和歌の知識を持つ人であるだ
う。

また、絵馬は、神に供えると同時に、
他の人に見てもいいものである。

といふことは見る側の人により
分らない図柄より、理解可能な
ものを描くといふのだ。人の文化度も高か
つていきなり見る側の人が考えられ
たといふことが考えられ、三六枚もの
札を奉納するには、お金がある
だろう。それを出すだけの経済力がある
と考える。

まゆめ

① 私は、何気なく、この村で暮らしてき、またが、この調査をして、もと調べたに、思ひました。

② 私は、今、三十六歳の、扇屋を、当時、の、まゆめの状態で見たいと思ひ、おなせなう、昔は、とても美しいと思ひ、うらやます。今は、絵の目、かばが

れていたり、字が読めなかったり、汚
れていたりします。当時の人たちの思
いを知る、ハニシは、できずせん。

また、60才以上の人の話の中に
「あの扇箱を舐めて、ノブトボ
ールを投げて遊んだものだ。」
というのがあるようにした。

確かにポールの当た跡が認め

た。このものが証明源・価値正通照

太。(參証源順·僧正遍昭·素性法師等)

素性法師等)

その子たちも大に遊ぶ

失符水たの巻に、
あふと細心に書す。

この村の誇りとして、

な冊額を傷つゝるな、と秋、
信じられ世に。

この村に人が、価値

を忘れた。貴重文化遺産
が、残されて、思ひ来す。

今回の調査を通して、

でも明らかになった、

村の人たちに知ってもらいたく
と強く思いました。

参考文献
〇三六歌石

京の歌枕 樋口茂子著

発行所 光村推古書院(株)

第2回 福崎町柳田國男ふるさと賞出品票			
学校名	福崎東中学校	学年	2
ふりがな			

福岡市立福岡東中学校
二年三組二十六番

安田千尋

福岡市立福岡東中学校			
氏名	安田千尋	学年	二年
性別	女	組別	三組
番	26	席	

不歌仙文獻

京の歌枕樋口茂子著

袋行所 光村推古書院(株)

人たちは知っても心に
思ひあふれん。

24

第2回 福崎町柳田國男ふるさと賞出品票

学校名	福崎東中学校	学年	2
ふりがな 氏名	安田 千尋 やすだ ちゆん	番号	5
題名	三拾大歌仙扁額		
内容	地域、神社の奉納絵馬 を調べ了		